

ラジオ日経「マーケット・テラス」

2026年9月15日



時価総額:73,662百万円、PER20.74倍、PBR5.76倍、ROE13.00%、配当利回り2.47%

- 新中計達成時の株価は1,000円超、優待の増額で配当+優待利回り最大5%超
- ・「モチベーション」にフォーカスした世界初の経営コンサルティング会社として設立。
- ・2026年12月期は、過去最高の売上収益・営業利益を目指す。
- ・中期的な成長戦略として2028年12月期に営業利益100億円、2030年12月期に150億円の達成を目標としている。
- ・新たな中期経営計画の達成が見えてくれば、1,000円超の達成も視野に入る。
- ・今期の配当利回りと優待利回りの合計である総合利回り予想は最大5%超。

- ・「モチベーション」にフォーカスした世界初の経営コンサルティング会社として設立された。
- ・コンサル・クラウド事業とIR支援事業からなる「組織開発Division」、キャリアスクール事業と学習塾事業からなる「個人開発Division」、ALT配置事業と人材紹介事業からなる「マッチングDivision」の計3セグメントを、同社とグループ企業で運営している。

BUSINESS



組織開発 Division	コンサル・クラウド事業	企業向けに 人的資本経営の実践を支援
	IR支援事業	企業向けに 人的資本経営の公表を支援
個人開発 Division	キャリアスクール事業	社会人向けに キャリア創りを支援
	学習塾事業	小・中・高校生向けに 学力向上を支援
マッチング Division	ALT配置事業	日本で働きたい外国籍人材と 自治体のフィッティング※支援
	人材紹介事業	求職者と企業の フィッティング支援

▶詳細は、統合報告書「[IR BOOK 2025 \(p21\)](#)」をご覧ください。

※従来のスキルをベースにしたマッチングだけではなく、求職者の性格などのタイプも考慮することによって実現する、定着率の高いマッチングのこと。

© Link and Motivation Inc.

出所: 同社IR資料

- ・2026年12月期は増収増益予想、注力事業であるコンサル・クラウド事業への経営資源集中により、過去最高の売上収益・営業利益を目指す。
- ・中期的な成長戦略として「2030年計画」を掲げ、2028年12月期に営業利益100億円、2030年12月期に150億円の達成を目標としている。
- ・この実現に向けた中核施策が、主力プロダクト「モチベーションクラウド」を軸とするストック収益の積み上げであり、ARR(年間経常収益)を2025年12月期の75億円から2028年12月期に150億円、2030年12月期には240億円へと拡大することを目指す。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
22.12期 連 実	32,776	3,627	3,501	2,058	18.45	7.70
23.12期 連 実	33,969	4,623	4,567	2,842	25.51	11.30
24.12期 連 実	37,458	5,485	5,420	3,691	34.38	12.20
25.12期 連 実	41,522	4,204	4,223	1,621	14.97	16.00
26.12期 連 予	46,700	6,310	-	3,470	32.03	16.40

- ・新たな中期経営計画の達成が見えてくれば、1,000円超の達成も視野に入ると想定される。
- ・今期配当予想は16.40円(前期比0.4円増)を見込んでおり、株主優待の10%増額によって、配当利回りと優待利回りの合計である総合利回りは最大で5%超。



時価総額:108,742百万円、PER12.59倍、PBR1.97倍、ROE14.8%、配当利回り3.57%

■エネルギー需要増を取り込み業績拡大、原子力分野の成長性に注目

- ・発電設備や産業機械、環境関連機器などを手掛ける機械総合商社。
- ・市場環境としては、脱炭素政策や電力需要増加、設備の老朽化更新といった構造要因が同社に有利に働いており、単年度の景気変動に左右されにくい事業構造となっている。
- ・良好な事業環境に加え、配当利回りが下支えとなり、株価は上値追いが継続、PER15倍以上への水準訂正に利益成長が加わることになると想定する。

- ・発電設備や産業機械、環境関連機器などを手掛ける機械総合商社。
- ・三菱重工の発電設備を扱う中核的な商流を担う一方、独立系商社として他メーカー製品も取り扱うことができ、顧客に対して最適な設備提案が可能な体制を構築している。
- ・単なる機器販売にとどまらず、発電所の建設・保守・更新を含めたトータルサポートを提供できる点が同社の競争優位性となっている。

事業概要



主な取扱製品

親会社・連結子会社

持分法適用関連会社



エネルギー事業

火力・原子力・再エネ等
エネルギー発電関連設備 等
参考資料・・・P32

西華産業

名南共同エネルギー
TVE
日本フェンオール



産業機械事業

機能性素材・食品飲料等生産設備、
自動化・省人化関連機器、
プラント機器 等
参考資料・・・P36

西華産業
Seika Sangyo GmbH
SEIKA MACHINERY, INC.
西曄貿易(上海)有限公司
台湾西華産業股份有限公司
SEIKA SANGYO (VIETNAM)
Seika Sangyo (Thailand)
旭サナック ……2025年12月1日子会社化



プロダクト事業

水中ポンプ、産業用・工業用バルブ、
船舶用エンジン、
半導体関連・特殊計測関連製品 等
参考資料・・・P39



西華産業
Tsurumi (Europe) グループ
日本ダイヤバルブ グループ
セイカダイヤエンジン
敷島機器
西華デジタルイメージ
田中造船

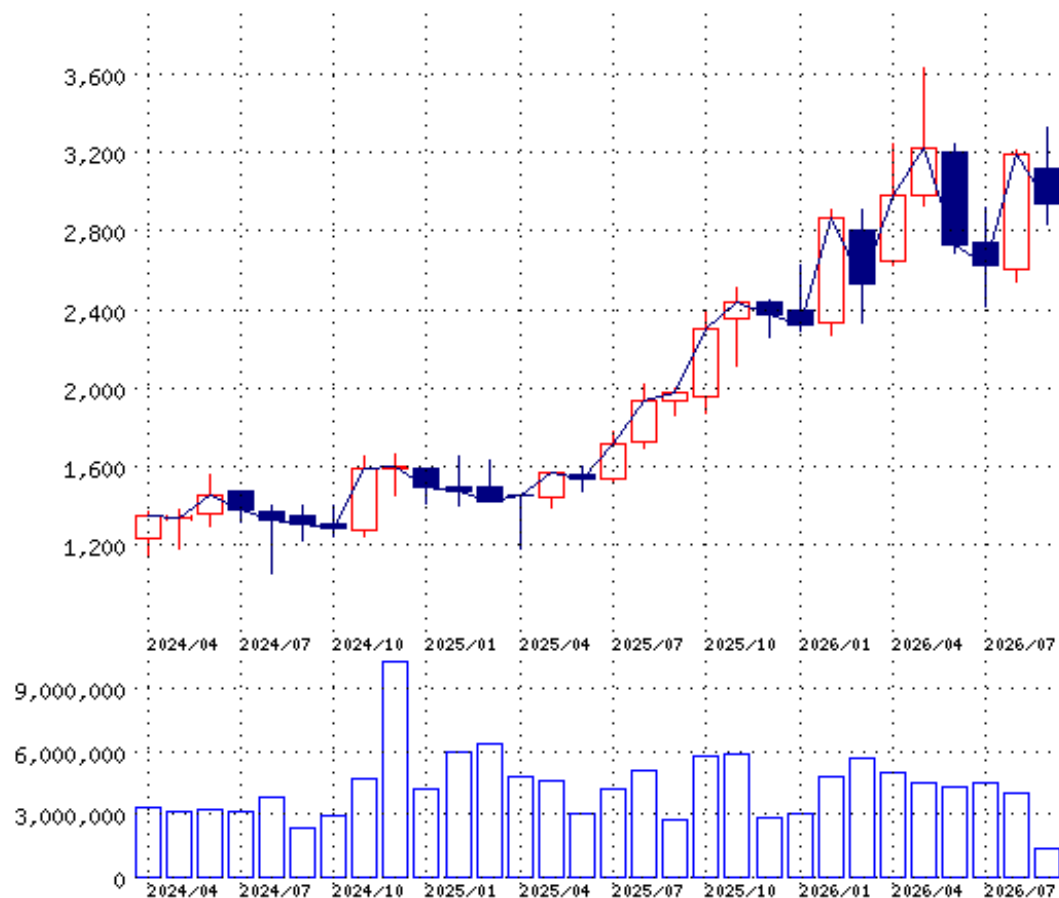
エステック
テンフィートライト

- ・1Q決算の際に早々の上方修正、従前予想は売上高で125,000百万円、営業利益で9,100百万円。
- ・エネルギー事業において予想を上回るペースで受注および受け渡しが進んでいる。
- ・プロダクト事業でもニッチトップや独占販売の商材を扱っており、エネルギー事業と同規模の収益で安定的に推移。
- ・原子力・火力の更新需要は来期以降も継続する可能性が高い。
- ・市場環境としては、脱炭素政策や電力需要増加、設備の老朽化更新といった構造要因が同社に有利に働いており、単年度の景気変動に左右されにくい事業構造となっている。
- ・配当予想も従前予想93円(1:3の株式分割考慮後)から上方修正された。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
23.3期 連 実	93,311	4,636	6,286	5,001	415.79	90.00
24.3期 連 実	86,785	5,580	6,255	4,489	372.46	150.00
25.3期 連 実	93,734	6,487	8,299	7,887	649.67	220.00
26.3期 連 実	108,485	8,031	9,036	7,580	208.44	155.00
27.3期 連 予	128,000	10,500	11,000	8,400	232.49	105.00

※2025年10月に1:3の株式分割を実施しているため2027年3月期は増配予想

- ・良好な事業環境に加え、配当利回りが下支えとなり、株価は上値追いが続こう。
- ・PER15倍以上への水準訂正に利益成長が加わることになる想定する。



時価総額:81,118百万円、PER10.58倍、PBR1.21倍、ROE10.2%、配当利回り2.39%

■上方修正と増配を発表、生成AIで恩恵を受ける海水淡水化高圧ポンプのトップ企業

- ・海水淡水化市場向け高圧ポンプメーカーとして世界No.1、新日本造機の株式取得で成長余力の大きいオイル&ガス分野への参入加速も期待される。
- ・実質的な事業環境は堅調であり、受注高・売上高ともに過去最高を見込む。
- ・今期予想は業績、配当ともに上方修正。
- ・2029年度に向けて「売上高1,000億円、営業利益率100億円、ROE10.0%」を目標に掲げているが、新日本造機の連結化に伴い、今期で早くも売上高1,000億円の大台を突破する見通しとなり、中計達成時の株価に割安感もある。

- ・1919年創業の老舗ポンプ専門メーカーであり、上下水道、発電所、海水淡水化施設などの社会インフラを支える大型・高圧ポンプに強みを有する。
- ・造水量世界トップ20の海水淡水化プラントのほぼすべてにポンプを納入し、海水淡水化プラント向けポンプでグローバルニッチトップ(GNT)企業であり、海水淡水化市場向け高圧ポンプメーカーとして世界No.1。
- ・また、2026年7月1日には住友重機械工業より新日本造機の株式取得(子会社化)が完了、新日本造機は石油化学分野を主軸に蒸気タービンおよびポンプの設計・製造からアフターサービスを展開する世界屈指の技術力を持つメーカー、信頼性と実績が最優先される石油ガス市場において、新日本造機の世界的なブランド力は強力な武器であり、西島製作所のポンプ販売網へのクロスセルが可能となる。
- ・水市場に加え、成長余力の大きいオイル&ガス分野への参入加速が期待される。
- ・蒸気タービンは法定点検が義務付けられており、極めて安定した高収益のアフターサービス需要も見込めよう。

安全・安心な社会の構築



水不足・食料不足を解決するポンプの提供

雨が降らず水不足や食料不足に悩む国がいくつもあります。

トリシマは、海水淡水化ポンプのエキスパート。世界中の海水淡水化プラントで、淡水の製造に大きくかかわっています。



＼ここがスゴイ！／

世界で圧倒的な納入実績！

	プラント	国	トリシマ ポンプ	納入年
1	Jubail 2 Replacement	サウジアラビア	✓	2022
2	Tawwelah	UAE	✓	2019
3	Shuaiba 3	サウジアラビア	✓	2005
4	Al Jubail	サウジアラビア	✓	2007
5	Ras Al-Khair	サウジアラビア	✓	2010
6	Umm al-Qurain	UAE	✓	2019
7	Soreq 2	イスラエル	✓	2020
8	Jubail AI 4 Station	UAE	✓	2007
9	Khalifa 2 Replacement	サウジアラビア	✓	2019
10	Soreq	イスラエル	✓	2010
11	Shuaiba 3 Conversion Project	サウジアラビア	✓	2022
12	Rafiah 3	サウジアラビア	✓	2019
13	Jubail 3a	サウジアラビア	✓	2020
14	Shuaiba 5	サウジアラビア	✓	2020
15	Jubail 3b TWP	サウジアラビア	✓	2021
16	Yanbu 3	サウジアラビア	✓	2012
17	Maghas	アルジェリア	✓	2009
18	Al-Zour North	クウェート	✓	2014
19	Al Jubail Phase 2	サウジアラビア	✓	1979
20	Shuwaib 2	UAE	✓	2009

造水量世界トップ20の海水淡水化プラントのほとんどにポンプを納入。

※大型プラントが集中する中東諸国のほかに、アジア、オセアニア、中南米、アフリカなどにも多くの実績があります。

世界中の豊富な実績とプラントの心臓部を担うポンプの効率化などが評価され、経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に認定されています。

気候変動対策向けポンプによる減災技術の推進

近年、異常気象で大雨が頻発し、各地で多くの被害が出ています。トリシマは安心・安全な社会インフラの構築に貢献するため、雨水排水ポンプ場などに多くの大形ポンプを納入。これらポンプが大量の雨水を排水し、街や農地を浸水から守っています。



＼ここがスゴイ！／

大形ポンプによる大容量の排水！

約300トンの水（25mプール1杯分）を5秒で吐き出すことができる大形ポンプも。



巨大インペラ（直径約3m）

水に浸かっても排水運転を継続できるポンプ！



水に浸かっても大丈夫！

通常のポンプは水没すると故障し運転不能に陥ります。このポンプは、大雨の際に万が一水に浸かってしまっても、排水運転を継続でき、浸水被害の拡大を防ぎます。

- ・2027年3月期の期初計画では、売上高で前期比2.8%増の95,500百万円、経常利益で同15.4%減の4,400百万円が見込まれていたが、7月1日の新日本造機のクロージング完了に伴い、同日付で業績予想の上方修正が発表された。
- ・実質的な事業環境は堅調であり、受注高・売上高ともに過去最高を見込む。
- ・中東情勢の不確実性により新規プロジェクト受注遅延リスクを踏まえて受注高で6,000百万円の下振れの可能性もあるとされているが、現時点で全般的な影響は限定的。
- ・また、1株当たり配当は、前期比1円増の64円予想だったが、今回の修正を受けて68円へ上方修正された。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
23.3期 連 実	64,659	5,927	5,693	4,404	166.50	52.00
24.3期 連 実	81,103	6,822	6,297	6,225	234.82	58.00
25.3期 連 実	86,501	5,449	4,540	4,068	152.96	60.00
26.3期 連 実	92,927	5,005	5,204	5,945	224.94	63.00
27.3期 連 予	103,900	5,700	4,800	7,100	269.79	68.00

- ・高値更新を前に株価は足踏みしているが、株価の割安感や中長期の方向性に大きな変化はない。
- ・2029年度に向けて「売上高1,000億円、営業利益率100億円、ROE10.0%」を目標に掲げているが、新日本造機の連結化に伴い、今期で早くも売上高1,000億円の大台を突破する見通しとなり、中計達成時の株価に割安感もある。



時価総額:3,439百万円、PER12.27倍、PBR1.37倍、ROE12.8%、配当利回り2.66%

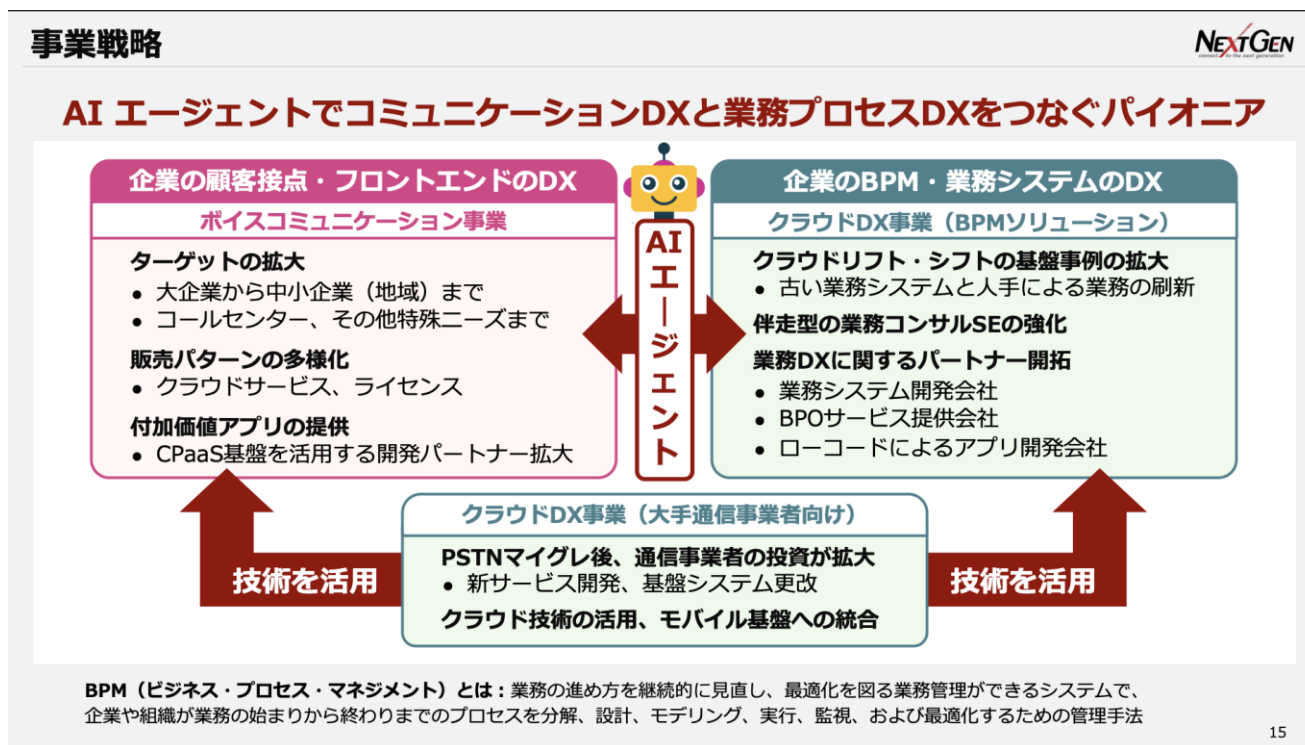
■AIと音声で過去最高益、目標株価は2,000円で株主還元利回りも4%超

- ・音声を中心とする通信技術に関するソリューション及びサービスを手掛けている。
- ・足もとでは、固定電話の番号ポータビリティ制度変更やMicrosoft Teams等との連携ニーズを背景に引き合いが急拡大している。
- ・実質的に中期経営計画を1年先取りする業績推移となっており、2029年3月期を最終年度とする中期経営計画は営業利益600百万円(今期予想350百万円)。
- ・足元で上昇している株価でも2倍程度の上値余地があり、配当と優待を合計した総還元利回りは3.5%超も魅力

- ・通信キャリア、一般企業、官公庁向けに音声を中心とする通信技術に関するソリューション及びサービスを手掛けている。インターネット技術を公衆電話交換網に持ち込み、日本初の全国規模のIP電話サービスを可能にした企業。
- ・グローバルスタンダード製品を輸入することで、初期の製品開発投資のリスクをコントロールし、内製化やクラウドサービス化なども含めて市場開拓を先行させるビジネスモデルを確立してきた。
- ・足もとでは、固定電話の番号ポータビリティ制度変更やMicrosoft Teams等との連携ニーズを背景に、クラウドPBX(※1)およびSBC(※2)市場が急拡大している。

※1: Private Branch eXchangers: 企業などの組織で多数の電話機を使用する場合に、施設内に設置・運用される電話交換機であり。施設内の電話機同士で内線通話を可能にしたり、外線(公衆回線)への接続を行う。

※2: セッション・ボーダー・コントローラー: 音声通信用の「ゲートウェイ」とも呼ばれており、通信会社が異なる2つの電話網間の細かい差異を吸収し相互接続を可能とするソフトウェア。



・実質的に中期経営計画を1年先取りする業績推移となっており、中期経営計画は2029年3月期が追加され、売上高7,000百万円、営業利益600百万円という目標が示された。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
23.3期 連 実	3,053	31	23	-454	-	-
24.3期 連 実	3,522	181	173	166	54.88	5.00
25.3期 連 実	3,620	262	250	204	66.61	10.00
26.3期 連 実	4,256	328	324	292	94.53	30.00
27.3期 単 予	4,500	350	340	280	90.54	30.00

- ・中期経営計画は、今期予想から最終年度に向けた営業利益のCAGRで+30%強と高い成長であり、積極的な株主還元と利益成長でROEも10%を上回り、利益とPERの切り上がりの両面が期待し得る状況が想定される。
- ・今期予想でPER20～30倍の評価だと、株価は1,800～2,700円。
- ・中計の最終年度でPER15倍の評価だと株価は1,900円に迫る。
- ・時価総額50億円以下+ROE10～15%の類似企業の平均PERは約15倍となり、同社が同等程度となれば株価は約1,350円。
- ・それらの平均は2,000円程度となり、現状の株価には割安感が強い。
- ・配当と優待を合計した総還元利回りは3.5%超であり、株価を下支えしよう。

